

ツインシティ倉見地区 まちづくりニュース

このまちづくりニュースは新幹線新駅の誘致とツインシティのまちづくりの情報をお知らせするものです。

ツインシティ倉見地区まちづくり意見交換会を開催しました

平成24年8月31日(金)、9月1日(土)、2日(日)の3日間、意見交換会を開催しました。延べ86名の方が参加され、「ツインシティ倉見地区まちづくりの取り組みとこれからの進め方について」をテーマに、たくさんの貴重なご意見をいただきました。



会場風景 ※倉見地域集会所(8/31)

日時	場所	参加者
8月31日(金) 19時～	倉見地域集会所	40名
9月1日(土) 15時～	北部文化福祉会館	22名
9月2日(日) 15時～	倉見地域集会所	24名

開催にあたり この意見交換会は、これから皆さんとまちづくりに関するいろいろな課題について話し合いをさせていただきスタートであることをお伝えするために開催させていただきました。

倉見のまちづくりは、町にとって重要な事業です。今後も地元の皆さんと顔を合わせながら話し合い、将来に悔いの残らないまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

参加対象者 ツインシティ倉見地区の関係地権者等でまちづくりを検討する地元組織『東海道新幹線(仮称)倉見新駅促進協議会』の方々で、主に生産組合、町内会、商店会等の皆さんを対象にお集まりいただきました。

東海道新幹線(仮称)倉見新駅促進協議会よりごあいさつ

平成9年11月に東海道新幹線新駅誘致が決定してから、紆余曲折しながら約15年が経過しました。それほどの進展がない中、昨年就任した木村町長の『地元の意見を十分聴いて進めていきたい』という思いからこのような話し合いの場が開かれました。

その思いを受け、私ども促進協議会でも多くの方に参加していただき、今回の意見交換会を成功させたいという気持ちで出席しました。

このような機会に、皆さんの意見を十分出していただけますようお願いいたします。



藤沢喜代治 促進協議会会長

町からの主な説明

「ツインシティ倉見地区まちづくりの取り組みとこれからの進め方について」

○ツインシティ倉見地区のすがた

・まちづくりの位置づけ

さむかわ2020プラン（町総合計画）で、新駅誘致地区周辺は「都市未来拠点」として位置づけられ、北部の中心的な地区としての役割が期待されています。

・市街化区域と市街化調整区域について

面整備検討区域（約63ha）は、一部に市街化区域を含みますが、概ねが市街化調整区域です。

○基本的事項

・ツインシティ整備計画について

・JR東海の考え方

“リニア中央新幹線開業後は東海道新幹線の過密ダイヤが緩和され、新駅設置の余地が高まる”、“周辺地区の都市形成の状況等を検証し、総合的に判断する”と示されています。

・まちづくりの必要性

新駅やさがみ縦貫道路整備への対応や少子高齢化など社会経済環境の急激な変化を踏まえ、将来にわたって快適で住みやすく、さらに発展していくために計画的なまちづくりが求められます。

○情報提供

・町の取り組み状況

今回は、平成22年9月に「ツインシティ倉見地区まちづくりのための説明会」を開催し、より多くの方々の理解を得るために10月より戸別訪問による個別説明を実施。23年9月からは2回目の説明を開始しました。

23年10月には、木村町長と地元との意見交換会を実施しました。

・平塚市の状況

ツインシティ大神地区（約70ha）では、地元組織により勉強会など、まちづくりに向けた取り組みが行われています。

○これからの進め方について

・話し合いの進め方について

・今後皆様と協議していきたいこと

促進協議会のブロック協議会（生産組合、町内会、商店会等）に分かれて、それぞれの土地利用における課題や特性に応じた説明会や勉強会などを通じて、情報提供を行いながら話し合いを深め、その中でまちづくりの区域や土地利用等について協議をしていきたいと考えています。

意見交換

■まちづくり全般について

【意見】○寒川町だけで事業ができるのか。

○資金計画を明確にしてほしい。

《町》新駅誘致も含めて町だけでできる事業ではありません。神奈川県及び県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会と連携しながら取り組み、国や県の補助や負担を要望しながら将来に向けたまちづくりに取り組みます。

【意見】○地元に負担をかけないまちづくりをしてほしい。

○（駅前）広場などに大幅な地元負担がないよう、国や県の補助をもらって負担軽減に努めてほしい。

《町》地元に負担を強いる考えはありません。ただし、まちづくりの手法によっては応分の負担という考え方はあるかもしれませんが、今後、区域や手法等を皆さんと決めた上で算定された事業費について話し合っていきたいと思います。地元との約束があり、基本的に駅前広場などの広域的な機能を有する施設については行政が負担し、区域内の方がもっぱら通行する道路などの地域的な機能を有する施設は地元負担でお願いしたいと考えています。

【意見】○倉見地区でも、寒川駅北口地区と同様の減歩率での土地区画整理事業あるいは歩道状空地を含めた地区計画を決定していくのか。

《町》整備手法を話し合う前段階でのご説明は難しく、これから協議を重ねる中で決まっていく内容です。地区計画はそれぞれの地区毎でルールを定めていく制度であり、無理な内容を導入する考えはありません。

【意見】○地元が市街化区域編入に反対している状況で、まちづくりの見通しがあるのか。

《町》必ずしも市街化編入について多くの方が反対されているということではないと思っています。地権者の方々と話し合っていきます。

【意見】○2回目の戸別訪問は、訪問していない地権者もいて中途半端に終わっているようだ。

○区域の問題については、農業意欲の聴き取りなど、もっと詰めておく必要がある。

《町》23年9月に開始した戸別訪問については、農家の方々の意向を十分把握する必要があり、その準備のため途中段階となっています。また、促進協議会からは、ブロック協議会などで皆さんが集まった席で説明し、欠席された方々を戸別に訪問してはどうかというご意見もあり、そのような対応をしていこうと考えています。

【意見】○今回の説明内容は2、3年前に済んでいる話ではないか。これまでも協力してきたのに具体的に何も決まっていない。行政の怠慢とも言える。2、3年前の中でどのような変化があったのか。

《町》前町長の時代に、リニア中央新幹線実現に向けた動きが非常に活発になり、これに伴う新幹線新駅設置の可能性が高まるという見方と歩調を合わせる形でまちづくりを進めていかななくてはいけないという気運の中で、面整備検討区域を段階的に整備する提案をさせていただいた経緯があります。昨年9月に就任した木村町長は、将来に悔いのないまちづくりのために地元と信頼関係をもって十分協議しながら取り組むべきという考えのもとで、話し合いの再構築のためにこのような説明の機会を設けさせていただきました。進展が見えるよう努力してまいりますのでご協力をお願いします。

【意見】○南部地区については土地利用の考えをまとめていただけるよう、町の方で提案してほしい。

■まちづくりの区域について

【意見】○説明のたびに整備区域の面積が63ヘクタール、49ヘクタール、24ヘクタールといろいろ出てくる。その中に含まれている市街化区域はどうなるのか。

《町》約63ヘクタールは面整備検討区域全体の面積です。このうち約49ヘクタールが市街化調整区域で、前回の線引き見直しで市街化区域編入のための特定保留設定を目指すご説明した面積です。町では、面整備検討区域の中で先行的なまちづくりの区域として約24ヘクタールをご提案した経緯があります。市街化区域をまちづくりに含むかどうかは、重要な部分です。まちづくりの区域を話し合う中でご意見をいただきながら決めていきたいと思っています。

【意見】○以前の説明会では約63ヘクタールを工期で分けて、全部実施するという説明だったが、今回の説明ではニュアンスが違う。方針が変わったなら経過説明が必要。

《町》将来にわたってこの約63ヘクタールの区域を整備していこうという方針に変更はありません。その実現のために、事業期間なども含め町からの提案について協議していただきながら皆さんのご理解を得ていきたいと考えます。

【意見】○検討する区域は、町の考え方等の提案がないと話し合いが進まずまとまらないと思う。

○町として進める意思を表明してほしい。

《町》「ツインシティ倉見地区まちづくり基本計画」に基づいて皆さんとの話し合いで最大検討区域（約63ヘクタール）がありますが、町財政などを考慮するといっぺんに整備することが難しい状況です。「どこから手掛けたらよいか」あるいは「段階的に取り組んだ方がよいか」など、町が決めるのではなく、いろいろなご提案をさせていただき、話し合っていきたいと考えています。

■(仮称)湘南台寒川線について

【意見】○(仮称)湘南台寒川線の概ねの計画が示された。新駅との接続など、具体的な考えがあるのか。

《町》平成24年6月に地元の皆さんに道路計画の概要が説明されました。新駅との接続は大きな課題です。まちづくりの基本方針では(仮称)湘南台寒川線から(駅前)広場までを繋ぐ考え方が示されています。道路線形を今後明確にしていく中で接続を検討し、皆様と話し合ってきます。

【意見】○道路周辺の住民に用途変更の意向を聴く必要がある。

《町》道路周辺は市街化調整区域ですので、用途を検討するには市街化区域に編入する必要があります。まずは先行して進める区域を定め、それを踏まえて宮山地区に関わる部分を検討していくことになると考えます。

【意見】○レンゴー（湘南工場）は地元に残った方が発展すると思う。隣接する市街化調整区域を活用して残ってもらうような計画など急ぎ対応すべきではないか。

《町》道路の関係部署で現在調整中です。

■今後の進め方について

【意見】○特性に応じた話し合いとは、具体的にどのように進めていくのか。

《町》生産組合（農家）、町内会、商店会などのグループで、農業に関する課題や商業活性化、住環境などグループに応じた課題について具体的に話し合う機会を予定しています。

促進協議会のブロック単位だけでなく、地区で分けたり、全体で開催するなど現状課題や将来に向けた考えなどを皆様からお聴きしながら取り組んでいきたいと考えています。

■その他

【意見】○平塚市ツインシティ大神地区では土地区画整理事業を実施する予定だと聞いた。

《町》大神地区では平成21年に、地権者による土地区画整理組合設立準備会が立ち上がり、まちづくりが検討されています。

（※平塚市では、平成24～25年度で都市計画の手続きを進める予定となっています。）

【意見】○新幹線沿線に住んでいて、振動や騒音についてもしっかり考えてもらいたい。

《町》この問題だけで対応することは難しいですが、今後のまちづくりに向けた課題解決の話し合いの中で考えていきたいと思えます。

【意見】○現在、倉見駅から東京駅まで約1時間半かかるが、新駅が誘致された場合は25、6分に短縮することが想定できる。こういったことを伝えるべきだ。

《町》交通の利便性は非常に高まると考えています。是非、新駅を誘致していきたいと思えます。

【意見】○平成23年9月に黒岩県知事が倉見・大神地区を訪問したとき、ツインシティの意味に疑問を持った発言をした。県がやる気があるのか分からないのに話し合いをするのか。

《町》神奈川県は横浜、川崎が県の中心である状況から県土の均衡ある発展を目指すためにツインシティを進めているという一面もあります。県知事は期成同盟会の会長でもあり、新駅誘致に反対をしているのではなく、「周辺自治体が新駅を支え、倉見に降りたくなるようなまちづくりを考えてほしい」とも発言しています。

【意見】○住民から意見が出るような形にしてほしい。

○他の新幹線新駅設置事例を知りたい。JR東海の方から直接話を伺いたい。

○若い人が住んで良かったと思うようなまちづくりをするチャンスだと思う。こういう機会を頻繁に開催して、若い世代が参加できる時間帯や曜日にも配慮してあげてほしい。

○今後は地元と町が一丸となってまちづくりを進めるという感じを持った。最近はなかなか情報が入ってこないで、こういった状況も地権者へPRなど情報提供をしてほしい。

今後、東海道新幹線（仮称）倉見新駅促進協議会のブロック（生産組合（農家）・町内会・商店会など）を基本にして意見交換会を開催させていただきます。

なお、開催の詳細につきましては、促進協議会幹事さんにご相談の上、回覧等を通してお知らせいたします。

—— まちづくりに関するご意見をお寄せ下さい ——

まちづくりに関するご質問・ご意見等がございましたら、お気軽に下記までご連絡下さい。担当の職員がご自宅にお伺いするなどし、説明をさせていただきます。

なお、毎月第3木曜日の午後に北部文化福祉会館で行ってました「ツインシティまちづくり相談コーナー」については、上記の対応に切り替えさせていただきます、当分の間お休みさせていただきます。

〒253-0196 神奈川県高座郡寒川町宮山165番地 寒川町都市建設部新幹線新駅対策課

TEL:0467-74-1111(内線 321~322)

FAX: 0467-75-9906

メールアドレス:shinkansen@town.samukawa.kanagawa.jp

ホームページ:http://www.town.samukawa.kanagawa.jp